

かわさきTMO通信

＜毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2013年1月号 No.45

- 新年のご挨拶
- 川崎駅周辺地区の商業規模
- 事務局だより

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：副会頭 深堀和子
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2013年1月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指して
 います。タウンマネージャーにお気軽に
 情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中はTMOの活動に参加いただき、たくさんのご支援を頂き有難うございました。お陰さまをもちまして、TMOの活動も一歩一歩成果を上げております。商店街協定は締結から具体的に協定順守店の認定への作業に入っております。提言部会からの川崎駅南口改札口の開設要望を商工会議所、観光協会などと川崎市長、川崎市議会議長に提出後、議会質問などからも一歩前進してきております。

本年は、なんとか駅周辺回遊バス（ワンコインバス）の実現をと思っております。回遊性の創造は、駅周辺地区の大きな課題であります。駅東西の回遊、街なかの回遊が街を元気づけていきます。本年も皆様のお力添えを頂き、前進してまいります。本年もよろしくお願いたします。



猪熊 俊夫・会長

◇新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。今年には巳歳だそうです。巳は、母親が子供を抱いた姿で、新しい誕生を意味すると聞きました。また、巳歳は、大きな変化がある年だともいわれております。いい意味での大きな変化であることを願っております。

川崎駅前広場整備により平面交差、バリアフリー化などで駅前も大きく変化し、商工会議所ビル（フロンティアビル）も昨年完成し、川崎市の顔としての整備が進んでおります。また、川崎駅西口では東芝のビルが次第に姿を現してきております。さらに、京急川崎駅周辺での整備の計画もあるようです。このようなハードの整備とともに、TMOのソフトな整備も大変重要になります。本年も充実した街のソフトをつくってまいります。本年もよろしくお願いたします。



馬場 義弘・副会長

年末の総選挙の結果から、新年を迎えて経済成長への期待が広まっております。デフレからの脱却が大きな目標となります。しかし、デフレの構造に対する見方がいろいろあり、ケインズ的な経済政策がはたして有効なのかどうかはわかりません。アベノミクスはスタグフレーションというデフレよりたちの悪い病に陥る可能性を秘めた劇薬となることも指摘されています。デフレは、需給バランスで需要が供給を下回っている状態です。そこで、公共需要と民間資金需要を意図的に増やすことで需給バランスを取ろうというのがアベノミクスです。しかし、日本のデフレの構造が、これまでにない需要の変化から生じているという意見もあります。商業の現場から見れば、物販店が減少しているという状況は、「もの」需要が大きく減少しているのではないのでしょうか。どこに需要があるのか新しい需要は何かを見つけて出すことが本当のデフレ脱却の道ではないでしょうか。今年の最大の課題は新しい需要を消費者に最も近い商業から見つけ出すことだと思っております。

(タウンマネージャー 笹原克)

◇川崎駅周辺地区の商業規模

かわさきTMOの対象範囲である川崎駅周辺地区の商業規模を商業統計調査から整理します。商業統計は、五年ごとに調査されており、最新の調査は平成19年の調査となります。調査報告書は、平成21年3月に発行されました。TMO対象地区を商業調査の調査区分で示すと、東田町、川崎駅前本町、川崎駅ビル、小川町、川崎地下街、ラゾーナプラザとしました。

まず店舗数をみると、平成19年で722店舗と市域全体（小売業）の9・7%を占めております。また、市域繁華街（市内で小売店舗が特に密集している33地域）に占める割合は24・6%となります。平成14年と比較すると、210店舗と大幅に増えており、これはラゾーナ川崎プラザの新設によるものであります。

従業者数は、平成19年に7386人と市域全体の11・7%の人が働いています。また、市域繁華街でみると28・1%となります。平成14年と比較すると、ラゾーナの影響で約2100人の増加となっています。

年間商品販売額は、平成19年に1919億円と市域全体の16・3%を

売り上げております。市域繁華街の売り上げでみると38・4%と1―3以上を当該地区で売り上げています。平成14年度と比較すると約416億円の増加となっております。ラゾーナの増加分が384億円です。

売り場面積は、平成19年で約19万9千㎡と市域全体の19・6%となり、市域繁華街でみると37・8%となります。平成14年と比べると6万3千㎡の増加となっています。

川崎駅周辺地区の商業（小売）経済規模は、1900億円規模といえます。24年度の調査では、さらに大きくなっていることが予想できます。市全域での小売年間商品販売額が1兆1660億円（平成19年）ですので、他政令指定都市と比較すると、仙台市、千葉市、さいたま市などとほぼ同規模といえます。人口規模で見ると京都市、福岡市、神戸市と並びますが、これら都市の小売販売額は1兆5千億円程度となっているので、川崎市の小売商品販売額も同規模に育つ可能性があるといえます。その16%という川崎駅周辺では2400億円の商品販売額が期待できます。

（タウンマネージャー 笹原克）

対象地区	店舗数		従業者数		年間商品販売額(万円)		売り場面積(m2)	
	H14年	H19年	H14年	H19年	H14年	H19年	H14年	H19年
東田町	60	62	429	327	627,071	417,184	6,019	5,156
川崎駅前本町	149	123	1,593	1,743	5,734,890	3,800,696	26,072	35,226
川崎駅ビル	169	164	1,301	1,117	2,175,022	2,135,493	14,895	14,483
小川町	50	89	1,229	1,275	5,578,984	8,079,253	62,543	68,611
川崎地下街	84	84	634	523	919,077	916,549	5,717	6,650
ラゾーナプラザ	0	200	0	2,401	0	3,842,419	0	48,681
合計	512	722	5,186	7,386	15,035,044	19,191,594	115,246	178,807

◇事務局だより

「川崎駅周辺老舗店マップ」の編集が着々と進んでおります。川崎で50年以上継続しているお店を現在80店リストアップし、各お店に掲載情報の確認をお願いしているところです。情報に誤りがあったり、また、あのお店が漏れている、等の新情報がありましたらぜひお知らせください。よろしくお願いいたします。なお、刊行は3月の予定です。

←江戸末期創業の老舗・清花堂さん



そして、3月には、いよいよオープンカフェもお披露目となります。実験的試みの段階ですが、3月2、3日の土日（雨天の場合次週に延期）、商工会議所前のオープンスペースにぜひお立ち寄りください。どんな新しい人の流れが生まれるか、乞ご期待!!

（事務局 六反友佳里）